

●聖地旅行報告

こんにちは、工藤篤子です。

2月23日、無事イスラエルから戻りました。

皆様のお祈りに心から感謝いたします！

私は2000年秋、2001年秋、そして今回の2002年春と、なんと私は一年半の間に3回も聖地旅行をさせていただくチャンスを神様からいただきました。そしてその都度、大きな霊的恵みをいただくことができました。今回の聖地旅行の報告をさせていただく前に、その前の聖地旅行での恵みからお分かちさせていただきたいと思います。また長くなりますから、少しずつ、あるいはお時間のあるときにお読みください。

1) 2000年秋の聖地旅行の恵み

この時は、長年務めてきたドイツ開拓教会の伝道師をやめ、「工藤篤子音楽ミニストリーズ」を建て上げようとしていた時でした。不思議な主の導きを確認しながらもたくさんの不安がありました。私にとっては逆に、新しい境地である日本で具体的にどのように賛美奉仕を進めてゆけばよいのか、どなたが協力してくださるのか、そして経済的な不安・・・。

そのような時に、「ミッション・宣教の声」の黒田禎一郎先生が、この聖地旅行をあなたの新しい活動の霊的な門出にしては、とお誘いくださいました。初日、美しいガリラヤ湖上でヘブライ語の「Baru Haba」を賛美しました。

「主よ、あなたのみ力の舟に乗り、お休みください。そうすれば私たちはあ

なたの義の衣を着て喜び楽しむでしょう。」の箇所を賛美したとき、大きな思いが私の心を満たしました。

ああ、そうなのだ、私がいつも主を心にお迎えるなら、主は私を喜びで満

たしてくださる。主が私を罪から救い、主のみ力の舟に乗せ、義としてくださった。主が私の人生の舵を取ってくださるのだ。嵐の時には、みことばをもって制し、私を守ってくださる全能の主が共におら

れるなら、何も恐れることはないのだ、と。

それからはいつも主が共におられるのを実感しました。旅行中、黒田先生は毎日みことばから神がどのようにご自身のマスタープランを成就なさっているかを語ってくださいました。そしてイスラエルは神のマスタープランの縮図。神が選ばれた都、エルサレムに入ってから、さらなる神のご臨在を感じました。歴史を支配しておられる主。私のみ父はこんなにすごいお方なのであれば、どうして私のちっぽけな奉仕ぐらい導いてくださらないことがあろうかと思いました。

そして、それまでスペイン、ドイツで出会ったユダヤ人の友人への救いを通し、私の内にくすぶっていた、イスラエルのための祈りが爆発しました。



その11月に「ミッション・宣教の声」が窓口になってくださり、「工藤音楽ミニストリーズ」を設立。聖地旅行に同行した中川庸子さんが世話人になってくださいました。そして翌年、やはりこの旅行に同行してくださった近藤さん、土田先生が世話人に加わってくださいました。「工藤篤子音楽ミニストリーズ」はこの聖地旅行から出発したのです。



2) 2001年秋の聖地旅行の恵み

ハーベストタイム・ミニストリーズの中川健一先生からお誘いを受けて、再びイスラエルを訪問いたしました。今回はバイオリンの高瀬真理氏と共に賛美奉仕をするためでした。中川先生のメッセージの後で、私の思いのうちに沸き上がる賛美を、高瀬氏がうち合わせをした訳でもないのにバイオリンで誘導してくれたのは驚きでした。御霊の導きだったのでしょうか。

2001年は私にとって、信仰によって歩むことを学んだ一年でした。その学びのひとつのまとめがこの聖地旅行でした。行く先々での中川先生の霊的な解説は、私の目を大きく開いてくれました。

「主は取るに足りない者を用いて栄光を現してください。」中川先生の語ったことが胸に響きました。「ミニストリーズ」のこの一年の活動は、力もない取るに足りないような私を選び、栄光を現そうとしてくださった主のみ業以外の何ものでもなかったと、ただ感謝で一杯になりました。



最後の日、ゲッセマネの園を訪れました。ここで主が血のような汗を流されて祈られたと言われている「万国教会」の祭壇の前の岩に手を付けて祈った時。このイエス様の苦悶の祈りこそ、私の信仰の基盤であることを確認したのです。このような罪深い者を受け入れ、赦し、そして主のご用に用いてくださるとは、何という憐れみ、何という恵み、何という愛！しばらく涙があふれ出て止まりませんでした。

3) 2002年春の聖地旅行の恵み

今回は、また黒田先生のツアーに同行させていただきました。今回は初めてのイスラエルの春、感動したのがガリラヤ湖畔の丘に咲き乱れる野の花々！まさしく「栄華を窮めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。」（マタイ6：29）

3月1日の札幌でのリサイタルがそうであったように、私は「ミニストリーズ」の奉仕を通して主の栄光が現されますようにと願っています。初日の黒田先生のメッセージは第一列列王記18章からでした。エリヤがバアルの神と戦った箇所です。

「あなたこそ神であることを人々が知ることができますように。」

エリヤの目的はこれでした。彼はバアルを拜んでいる者たちに、主こそ神であることを知らせたかったのです。それで神はご自身の栄光を現し、主こそ神であることを示してくださいました。私の奉仕にもエリヤの祈りが加わりました。

旅行中、暇を見つけては預言書を開きました。旅行をして歴史的説明を聞くたびに、預言書にその通りのことが書かれてあることを見つけるのです。エルサレムの崩壊、イスラエルの荒廃、マサダの陥落、1948年のイスラエル建国とその歩み、ヨルダンのイスラム教とキリスト教の権力闘争の歴史・・・。



預言書にこのような箇所を見つけました。

イスラエルについては

「シオンのために、私は黙っていない。
エルサレムのために、黙り込まない。
その義が朝日のように光を放ち、
その救いが、たいまつのように燃えるまでは。
そのとき、国々はあなたの義を見、
すべての王があなたの栄光を見る。」（イザヤ62：1、2）

異邦人については

「多くの国々の民、強い国々がエルサレムで万軍の主を尋ね求め、主の恵みを請うために来よう。万軍の主はこう仰せられる。「その日には、外国人が話すあらゆる民のうち十人が、ひとりのユダヤ人のすそを堅くつかみ、『私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ。』という。」（ゼカリヤ8：22、23）

エルサレムを攻める者については

「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。」（ゼカリヤ14：16）

何という希望！神はすべて神を求める者を救おうとなさっている！主はこの旅行により神のお約束（契約）を再確認させていただきました。

その救いの計画がキリストの十字架と復活によって成就しました。その復活の主には私たちはお出会いし、その主が私たちの内に生きてくださるのです。なんという神のマスタープラン！

「主は今生きておられる。」

そして祈ります。

「あなたこそ神であることを人々が知ることができますように。」



今後の活動:お祈りください!

3月31日の藤井寺キリスト教会、南大阪聖書教会の賛美礼拝のため、
4月1日の「ミッション・宣教の声」国内宣教部主催、月曜礼拝のため

そして特に4月8日（月）、大阪のカテドラル大聖堂でのリサイタルのためにお祈りください。
ミニストリーズではこのコンサートは二つの目的のもとに企画いたしました。

1. ワールドカップ2002の伝道部門であるゴール2002に献金するためです。
ワールドカップ2002に向けて、ゴール2002ではたくさんの外国人
クリスチャンボランティアがやってきます。かれらは町やワールドカップの
会場でトラクト、「ジーザス」のフィルムなど配布の伝道をしてくださいます。
そのためにたくさんの資金が必要です。「工藤篤子音楽ミニストリーズ」
ではできるだけ多くの収益金をお献げしたいと願っております。
そのために1200名の来場を目標にしています。
2. 今回はリサイタル形式ですので証しはいたしません、イエス様を賛美、
証しする音楽をプログラムにふんだんにも盛り込みました。それらの
音楽をとおして、また訳詞のなかに書かせていただいた信仰の証しを
とおして皆様に主の救いをお伝えすることを目的としています。

そのために皆様、どうぞお祈りご協力下さい。どうぞ知人・友人をお誘い
ください。特に関西の皆様には格別のご協力をお願いしたく存じます。
その他の地方の皆様もどうぞ関西のお知り合いの方にお知らせ下さい。
そしてこのコンサートをとおしてご来場の皆様が「主こそ神であることを
知ることができますように」お祈りください。

皆様に主の祝福がありますように

感謝をこめて

工藤篤子